

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
M211N211		感覚器疾病論 (Disease of Sensory Organs)					健康科学								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
必修	1	2	医学部看護学 科	後期	月5,火5,金4	日本語	英語	オムニバス							
担当教員	氏名 正木孝幸・船津淳・川野利明・酒井貴史・河野辰行 他														
	E-mail masaki@oita-u.ac.jp 内線 5071														
授業の概要	患者が抱える 歯科・口腔外科疾患、眼科疾患、耳鼻咽喉科疾患、皮膚科疾患の病因・病態の理解を深め、臨床の場で実際に行われている診断法や治療法について学習する。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1	歯科・口腔外科・眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科領域の症候を理解し、説明できる。							○							
目標2	主な疾患の病因・病態と検査、診断および鑑別疾患を理解し、説明できる。										○				
目標3	主な疾患の治療の概略と要点を説明できる。											○			
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)								5			3	2			
授業の内容															
1	歯科・口腔外科：歯科疾患と全身との関わり														
2	歯科・口腔外科：口腔粘膜疾患、口腔がん(診断)														
3	歯科・口腔外科：口腔口蓋裂、口腔がん(治療)														
4	眼科：解剖・生理・検査														
5	眼科：結膜・角膜疾患														
6	眼科：緑内障														
7	眼科：網膜疾患														
8	耳鼻咽喉科：耳科領域疾患														
9	耳鼻咽喉科：鼻科領域疾患														
10	耳鼻咽喉科：口腔・咽頭領域疾患														
11	耳鼻咽喉科：頭頸部領域疾患														
12	皮膚科：皮膚の構造と機能、皮疹の見方、検査法、治療法														
13	皮膚科：湿疹、皮膚炎群、水疱症														
14	皮膚科：膠原病、その他炎症疾患														
15	皮膚科：感染症、腫瘍														
ライクニング	A:知識の定着・確認		○学習記録で振り返る。			工夫の他の	・各回の授業で学んだ事やその意義を考える時間を設ける。 ・学んだ知識を応用する訓練を通じて、使える知識とする。								
	B:意見の表現・交換		○講義中に意見を求める。												
	C:応用志向		○事例を入れて鑑別診断を考えさせる。												
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		次の学習内容について予習する。(8)												
	事後学修		前回の授業で学習した内容を復習する。(16)												
	想定時間合計		24												
教科書		多田 弥生他、系統看護学講座成人看護学[12]皮膚、医学書院、2025年、ISBN978-4-260-05676-2 大鹿 哲郎他、系統看護学講座成人看護学[13]眼、医学書院、2025年、ISBN978-4-260-05680-9 小島 博己他、系統看護学講座成人看護学[14]耳鼻咽喉、医学書院、2025年、ISBN978-4-260-05675-5 井桁 洋子他、系統看護学講座成人看護学[15]歯・口腔、医学書院、2025年、ISBN978-4-260-05687-8													
参考書		特になし													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	期末試験		80%	○	○	○							
	学修記録		20%		○	○							
注意事項	Moodleに授業資料が掲示された場合は必ず確認をして授業に臨み授業後は学修記録を行う。												
備考	附属病院の臨床の第一線で活躍されている医師が講師となります。												
リンク													
	URL												
担当教員の 実務経験の有無	○												
教員の実務 経験	医師（病院）												
教員以外で 指導に関わる実務経験者の有無	○												
教員以外の 指導に関わる実務経験者	医師（病院）												
実務経験を いかした教育内容	附属病院の医師として患者の病態や疾病への理解による疾病論の知識を教授し、疾患の診断や治療法についての学習を支援する。												